

内閣府から目指される

男女共同参画社会への歩み

●横須賀市役所自らが、他の事業所のモデルになることを目指します

7月に新しく市長に就任された蒲谷亮一市長に「男女共同参画への想い」と題して、突撃インタビューを行いました。蒲谷市長が語られた想いからは、男女共同参画社会の実現に向けて着実に横須賀市は歩んでいるのだということと強く感じました。

●目標は、やりたいことが出来る社会
Q 市長の描く男女共同参画社会とは、具体的にどのようなものですか？

私がイメージするのは、個人の生き方が性別のみを理由に閉ざされることなく、やりたいことが出来るようになる社会です。男女共同参画社会基本法の制定以前は、職場や学校や地域、その他あらゆる場で、とくに女性の

Q 市長自身の体験として今と昔では変化してきたと感じていますか？

昔は女性の参政権の問題などありましたが今は解消されていますし、家庭では父親が一番エライという封建的な考え方が薄らいでいたりするので、その点からいえば、変わってきているといえるでしょう。女性が社会に出るのが当たり前の時代になり、共稼ぎという家庭があらわれたことで、「家事は女性がするもの」ということではなく、両方が働いているのだから、夫婦で家事を分担するという生活スタイルが増

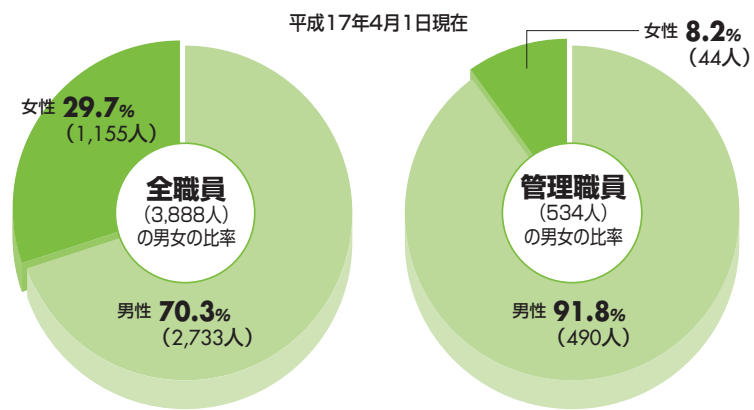


●管理職に挑戦する意欲不足の現れ？

Q 横須賀市役所職員の男女の比率データに対する率直な感想、および今後市長として取り組むべき展望についてお答え下さい（データ参照）

このような数字について、以前課長アンケートを実施したところ「女性自身が役職者になりたがらない」「挑戦しない女性側の問題」という声も挙がったようです。私は、「挑戦出来ない、またはしない」要因を調査し、そこを改善することが組織として取り組むべきことだと考えています。また、個々の能力を高めるために女性を他機関に積極的に派遣し、広い世界を見る機会を設けています。これには必要性和可能性を感じています。チャレンジを躊躇しないような力をつけること。加えて、長い間の男性社会からの脱却も必要だと思っています。

横須賀市役所職員の男女の比率



Q モデル事業所としての具体的な取り組みを教えてください。
最近の取り組みとしては、各職場の課長職を職場の男女共同参画推進のリーダーと位置づけて、職員が能力を発揮する機会を設け、調整する役割を担っています。また、今回、女性の副市長を指名したように、今後も優秀な女性を適材適所で起用するつもりです。これらをモデルケースとして、市内の事業者はもちろん、全国の自治体や事業所に見習っていただくという意気込みで取り組んでいます。この取り組みは内閣府からも注目され、評価されています。

●市の長として意識を変えていく

Q 男女平等モデル事業所作りの取り組みを進めていくうえで、問題点や課題はありますか？

男女平等は当然のこと、男女共同参画は必要という認識は職員全体にあっても、長い時間をかけて築かれた慣習を変えようとするわけですから、非常に難しいことです。また、取り組みについて抵抗感が強いであろうと思われるポジティブ・アクションの検討も考えなければなりません。横須賀市は条例でもプランでも「市が男女平等の事業所としてモデルとなります」と市民の皆さまにお約束しているわけですから、私は市の長として、職員の意識を

えてきました。

●料理も買い物も、私は日常です。

Q 市長ご自身は家事をする男性をどう思われますか？

私自身が妻を亡くしてから料理も作っていますね。いいんじゃないですか。妻がいた頃でも皿洗いをしていた。料理は作ってもらったから、皿洗いがらゆるのは当然かなと思ってね。「お父さんが洗うときれいになる」と妻に褒められてやっていました。それに今にして思えば、自治省で働いていた頃の単身赴任で得た体験が予行練習だったようなものです。今はスーパーで買い物かごを下げて買い物もしていますよ。知り合いの中には買い物袋を下げた姿を見られて照れる方もいますが、私は見られても何ら抵抗がないですね

●男女平等モデル事業所として、市内の事業所に見習って頂くという意気込みで！

Q 横須賀市が行う男女平等モデル事業所は、具体的にどのような事業所が望ましいとお考えですか？

変えていくつもりです。山の頂までは遠く及びませんが、もう上を目指して麓を離れたことには違いありません。

●市民の声は必要不可欠。意見交換を継続して取り組んでほしい

Q 横須賀市では男女共同参画市民サポーター制度を設けて市民協働型の施策立案に取り組んでいるようですが、このサポーターに関しての要望等がありますか？

現行の男女共同参画プランや男女共同参画推進条例の策定に関わっていたいただいたサポーターの方々には、今後も男女共同参画社会の実現のために市の取り組みに積極的に関わっていただき、パートナーシップ関係を継続していただきたいと思います。

私も市民と直接交流する場を精力的につくっていく予定です。

気さくにインタビューにお答えいただいた蒲谷市長。その柔らかな物腰とは異なり、男女共同参画への熱い想いを感じる事が出来ました。今後の横須賀市の取り組みに注目したいと思います。